

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0570107664), 法人名 (社会福祉法人成光会), 事業所名 (グループホーム ひふみ), 所在地 (秋田市上北手百崎字ニタ子沢1-6), 自己評価作成日 (令和3年1月10日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

上北手の小高い丘の上であり、中庭からは四季折々の景色を楽しむことができます。「ゆとり、いたわり、思いやり」の理念のもと、認知症になっても穏やかに過ごすことが出来る様にお手伝いしています。コロナ禍で外出、面会等は制限しておりますが、手紙やメールでのやり取りやカーテン越しでの短時間の面会等を実施しています。また、全居室の畳、エアコン等を交換したり、感染予防に努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団), 所在地 (秋田市御所野下堤五丁目1番地の1), 訪問調査日 (令和3年2月17日)

開設して18年目を迎え、経験豊富なベテランの職員が経験の少ない職員を育成する体制を整えている。毎年、ISO9001を取得しており、職員の目標や要望の把握、意思を上手く表出できない入居者の思いの把握を丁寧に扱っている。福利厚生も充実しているので職員が安心して働くことができ、職員の定着率も高く、このことが認知症ケアに適した環境となっている。コロナ禍で色々な制限の下、積極的に感染予防に努めながら入居者の穏やかな安定した生活、個々が尊重された一人の人としての独自性を大切に日々のケアに努めている。

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 54-60 contain specific evaluation items and results.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ゆとり、いたわり、思いやりを理念として認知症を持つ一人の「人」として尊重し、認知症の進行と症状を緩和できるよう理念の実践に取り組んでいる。 | パーソンセンタードケアを実践するために、分かりやすい理念を念頭に置いている。ゆとりがいたわり、思いやりと繋がっていく理念に沿い、利用者本位の認知症ケアができるよう努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 例年は、地域の保育園や福祉施設、商業施設等に入出入りしているが、感染予防の為介護実習等は中止している。 | コロナ禍のため地域との連携を図ることが難しい中、運営推進会議を活用して地域との交流が途切れないよう努めている。また、地域にある短期大学から救急救命の研修に必要な物品を貸与してもらうなど、地域とのつきあいを継続している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | 地域のスーパーや直売所等では顔なじみになっている。近くの日赤短大実習生の受け入れは中止している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 三密にならないように2つのグループに分けて実施している。地域包括からも情報提供頂いている。 | 感染症防止の観点から細心の注意を払いながら、運営推進会議の開催を行なっている。参加できなかったご家族には、議事録で会議の内容を報告して、意見をいただくよう努めている。地域包括支援センターともこまめに連絡をとり情報交換を行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の指導・監査説明会に参加し情報を得ている。アンケートにも協力している。分からないことは、直接電話している。 | 行政からの要請があれば進んで協力し、電話やメールなどを活用して協力関係を築いている。また、事業所の空き情報について地域包括支援センターと情報交換を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化委員会が中心になって定期的に研修を行っている。 | 年間の研修計画に毎年3回以上組み込んで、定期的に身体拘束に関する研修を行っている。身体拘束に対するリスクを理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 秋田市のグループホーム協議会主催の虐待防止研修に参加しています。事例を基に研修を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 地域包括支援センターより資料を頂き運営推進会議で配布した際話し合いの場を設けている。職員にも目を通してもらっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 相談受付時、契約時、制度改正時、ご家族への説明を行っている。疑問がある場合は都度丁寧に説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時等のやり取りに、職員も含め共有できるように「要件伝達シート」を利用し、細かな伝達を大切にしている。運営推進会議に欠席された家族には議事録等を配布し伝達している。 | 運営推進会議には数名のご家族が必ず参加してくれている。面会時や運営推進会議に出席していただいた際に細かな情報提供を行い、ご家族が意見や要望を出していただけるよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月毎に目標管理制度のMBOファイルに意見、要望を記載したものを管理者、理事長が確認している。利用者の状況や日々の気づき等はなんでもノートを活用し、確認している。 | 普段から話しやすい環境下にあって、産休・育休、希望休の取得など、家庭や本人の状況に応じて柔軟に対応して安心して働ける環境を整えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得推進奨励制度がある。申請により給料に反映されている。また、家庭事情も考慮し、夜勤なしの勤務や時短勤務等にも柔軟に対応している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJT、MBO、内部研修、外部研修等法人としての教育システムがあり、各自目標を持って行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協会の合同作品展や研修、南部地区勉強会に参加している。認知症ケア専門士の研修にも参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご家族、担当ケアマネジャー等から事前に情報収集し、入居後の生活に役立てている。ご本人の話からも不安や要望を聞きながらケアを提供できるようにしている。 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に見学して頂き、不安や要望等を「入居事前調査報告書」に記載しスタッフ全員が理解できるようにしている。入居後の変化等も面会時報告している。 | |
| 17 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事の支度、盛り付け、後片付け等の家事を一緒にしている。今年度は、買い物等の外出を控えている。 | |
| 18 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 電話やメール、はがき等でのやり取りしている。一緒に外出できるように声掛けしているも、今年度は外出を控えている。短時間の面会は続けている。 | |
| 19 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 受診や美容院等に外出してもらっていたが本年度は、感染予防の為家族、本人の許可を得てホームで散髪している。 | コロナ禍で面会制限などもある厳しい中でも、できるだけご家族の顔が見られるようにと、感染防止用のビニールカーテン越しに面会してもらうなど工夫を凝らして支援している。また、ご家族に連絡をする際にも用件だけではなく、常に最近の様子や状況や写真を同封して、関係支援に努めている。今年は写真入りの年賀状をご家族に送った。 |
| 20 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ほぼ全員がリビングで過ごしている。お互い声を掛け合う姿がみられている。 | |
| 21 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居時は、サマリーをお渡しし、継続的に介護ができるようお手伝いしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 22 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様が生活の中でどんなことを求めているのかを日々の会話や表情の中からくみ取るように努力している。意思の疎通が難しい方は、その人の立場に立って思いや行動、観察の中で意向を把握している。 | 意見や意向を上手く表出できない方には、パーソンセンタードケアの考え方を中心に支援している。また、認知症が進行して過去を忘れてしまった方には、今を充実した穏やかで快適な生活と感じて過ごしていただけるよう支援している。 | |
| 23 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族やケアマネージャー等からそれまでの生活状況をお聞きし、ご家族も分からない生活歴等は、ご本人との会話等から情報を得ている。 | | |
| 24 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 業務日誌、療養記録、カンファレンス等の記録、スケール測定の記録等で状態把握に努めている。 | | |
| 25 | (10) | ○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族やご本人からの要望又は毎日のカンファレンス、月1回のケアプランカンファレンス、生活リハビリの評価等を参考にしている。日々変化する入居者への対応はなんでもノートを活用し、全職員が同じ対応が出来るように配慮している。 | 毎日のカンファレンスでモニタリングを繰り返し、評価表を用いながら入居者の情報を共有化している。できていない目標は解決できない課題として見直しをしながら目標を変更し、常に現状に即した介護計画となるよう努めている。 | |
| 26 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | フォーカスチャート式の記録をし、いつ誰が見ても分かり易く情報共有に繋がっている。温度表にアクティビティの参加状況、受診、臨時薬内服等を記載し、分かり易くしている。 | | |
| 27 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の保育園、学校、施設、地域包括支援センター、グループホーム連絡会との交流あり、繋がりを大切にしているが、コロナ禍の為参加できないこともある。 | | |
| 28 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 各自にかかりつけ医があり、定期的を受診し、健診、予防接種も受けている。体調変化時は連絡し、指示を受けている。不明な点があれば、薬局などにも連絡も入れている。救急時は同行している。 | 基本的にはご家族が、定期的受診や薬の受け取りを行なっているが、状態の変化が見られる時等は職員が同行している。職員が同行できない場合には、状況説明を記載した文書をご家族に渡し、かかりつけ医が近況をより理解できるよう工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師2名が勤務しており体調管理をしている。体調に変化があったときは早めに家族と連絡をとり、一緒に受診したりしている。救外受診時は、同行している。 | | |
| 30 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退去時はサマリーをやり取りしている。体調不良時には受診に同行し、直接関係者に情報を伝えている。入院中は、MSWと随時情報交換を行っている。 | | |
| 31 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りについては、重要事項説明書に記載し、入居の際に説明し同意を得ている。要介護3になったら希望の特養の見学、申し込みをし、次の暮らしの場への移動がスムーズにできるよう支援している。 | 入居する前に看取りを実施していないことを丁寧にご家族に説明し理解を得ている。将来的に入居者とご家族の要望に合った生活ができるよう、相談に乗りながら支援に努めている。 | |
| 32 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 入居者の急変時、事故発生に備えて応急手当、初期対応の訓練を行っている。救急受診に備えて「緊急時対応シート」を準備している。コロナ対策の研修を行っている。 | | |
| 33 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法人として消防計画がある。消防署の立ち会いのもと年数回避難訓練をしている。非常時の食品、物品を備蓄し、期限切れを確認している。 | 避難訓練や緊急連絡網を使った連絡訓練を定期的に行い、迅速に対応できるよう心掛けている。災害時に停電があった場合は、自家発電で1時間ほど対処する仕組みとなっているので、余裕をもって避難する体制ができている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 34 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | パーソンセンタードケアの考えに基づき個別性を踏まえたケアを心掛け努力している。 | 職員が忌憚ない意見交換を行い、個別の声掛けや対応をしていることで、ケアに個性が生まれている。一人ひとりの人格を尊重し、一方的な支援ではなく、入居者のできることを引き出せるよう自立支援に努めている。 | |
| 35 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | スケール測定を踏まえて一人一人の健康状態、性格、個性を尊重し自己決定できるように声掛けをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床、就寝時間は決まっておらず一人一人その日のペースに合わせている。天気の良い日は散歩やドライブで気分転換を図って頂いているが、コロナウイルス流行の為出来ないこともある。 | | |
| 37 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | お化粧をされている方は、化粧品の補充を行い、身だしなみを整えるお手伝いをしている。 | | |
| 38 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立を作る時は入居者の希望や好きなものを取り入れるようにしている。季節の旬の食材を使用したり、行事食も楽しんで頂いている。調理から後片付けを一緒に行っている。 | 食事の準備や片づけを入居者と一緒に行っている。訪問時は、入居者がもやしのひげ取りを行っていた。昼食については利用者の反応や職員の感想、献立は同法人の栄養士によるコメントで振り返り、栄養面にも配慮して楽しみながらもバランスのとれた食事となるよう努めている。 | |
| 39 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食、食事量をチェックし、月初めに体重をチェックしている。体調や状態に応じた食形態を心掛け、水分不足にならないように適宜水分補給を心掛けている。 | | |
| 40 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後はお茶をすすめている。一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。必要時は、歯科往診を受けている。 | | |
| 41 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 清潔保持を保てるように、個々に合わせた排泄介助を行っている。排泄チェック表を利用し、パターンを把握し、声掛けをしている。 | 自分からトイレに行く方には、終わり頃にリハビリパンツを渡す等、さりげない後方支援を心がけて自主性を大切にしている。声掛けが必要な方には、声掛けに留意しながら誘導支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 体操や風船バレー等を取り入れ入居者様が楽しみながら体を動かせるように配慮している。水分摂取に努める他、乳製品やオリゴ糖等を利用し自然排便を心掛けている。必要時坐薬等も利用している。 | | |
| 43 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は毎日実施している。入居者の体調、夜間の睡眠状態、食事量等を考慮しつつ、希望に合わせて入浴して頂いている。入浴に対して拒否がみられた場合は、入居者同士の声掛けや入居者個々にあった対応を心掛けている。 | 個々に合わせた声掛けで入浴がスムーズにできている。特に入浴拒否が見られた時は、利用者からの一言でスムーズに入浴に進められることができる場合もあるので、無理強いをするのではなくタイミングや声掛けの工夫で、気持ち良く入浴していただけるよう取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者の個々に合わせて、アクティビティや散歩等を取り入れ安眠出来るように工夫している。不眠の訴え時、飲み物や軽食の提供、話を傾聴して、不安を取り除けるよう寄り添っている。 | | |
| 45 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 飲み忘れやミスを防ぐ為に複数回チェックをしている。副作用が疑われる場合は、医療機関や薬局に問い合わせをして指示を受けている。内服薬について変更がある場合は、日誌や療養記録に記入、カンファレンスでも情報共有に努めている。 | | |
| 46 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者の得意なことを活かして、一緒に楽しみながら家事参加を実施。役割を持つことで、自信へと繋がっている。また、庭で野菜を育て食への楽しみを作ったり、中庭を通る動物を見て楽しいでいる。 | | |
| 47 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族と外出する際は、歩行状態、排泄等について説明しています。コロナウイルス流行に伴い、外出する機会が減少してしまいましたが入居者の希望に合わせて散歩や3密を避けてダリア園での花の鑑賞やおやつを食べに出かけている。 | 受診の際に消毒用スプレーボトルを持参してもらったり、人混みを避けた場所から景色を楽しんだり、感染防止の観点により細心の注意を払いながら外出支援を実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 日用品購入の為、お小遣いを預かり金として管理している。必要な物があれば、一緒に買い物外出をしていましたが、コロナ禍の為職員が代行購入している | | |
| 49 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 事務室の電話はいつでも利用可能。家族からの電話はご本人に取次、ゆっくりと腰を掛けて話ができるようにしている。年賀状やお礼状のやり取りもお手伝いしている。 | | |
| 50 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ハイター液、アルコール等で毎日消毒を行っています。居室は畳の為家族も宿泊できるようになっていますが、コロナ禍の為自粛している。11月に全室のエアコン、畳交換をしている。 | 床暖とエアコンで暖を取っているため、乾燥に配慮し適宜換気や加湿器の活用で感染予防のための対策を実施している。ソファでは入居者が好きな場所に座ってくつろいでいる。清潔な環境で安心して過ごせるよう努めている。リビングは掃き出し窓のため採光が十分で、外の見晴らしもよく四季折々の風景を楽しむことができる。 | |
| 51 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 好きな場所で気の合う方と過ごせるようにリビングソファの他、廊下、玄関等にベンチを設置している。リビングの小さい和室で就寝する方もいる。 | | |
| 52 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 畳を新しく交換し、明るくなったと好評を得ている。家族も宿泊できる広さになっている。面会時やその時の写真を飾り、自分の部屋が分かるようにしている。 | 居室には洗面所、ダンス、ベッドが備え付けられている。備え付けられている畳のベッドに持参した布団を敷いている。壁には思い思いに塗り絵や写真を飾っている。代替えのきかないような高価な貴重品以外は自由に持ちこみができるので、個性のある居室となっている。畳を交換したとのことで、居室内が清潔感のある明るい空間となっている。 | |
| 53 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室入り口には表札や写真を目印につけている。建物内部には手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。迷いなく部屋に戻っている。 | | |